

茅ヶ崎セントラルクリニック

加藤 由美子(看護部 / 看護師)

功 績 ADL低下患者に対する送迎体制を多職種連携により再構築し、介護送迎から当院タクシー送迎への移行を実現した。患者の尊厳と在宅生活の継続を支えながら、家族負担の軽減および当院における透析継続体制の強化に寄与した功績。

推薦者氏名 野口伸一(事務長)

推薦理由 本事例は単なる送迎方法の変更ではなく、高齢化およびADL低下患者が増加する中で、地域生活を維持しながら透析治療を継続するための新たな支援モデルを実践した点に大きな意義がある。加藤氏は患者本人の意思を尊重しつつ、多職種を巻き込んだ調整力と看護専門職としての評価力を発揮し、患者・家族・当院それぞれに価値をもたらした。今後の透析医療における患者支援体制の模範となる取り組みであり、その功績を理事長賞として推薦します。

内 容

対象患者(80代女性)は入院後のADL低下により、従来利用していた当院タクシー送迎から外部介護送迎サービスへ移行していた。しかし、介護送迎は家族に月額約3万円の経済的負担を生じさせていた。加藤氏はケアマネジャー資格を有する看護師として、患者の身体機能だけでなく、「自分で動きたい」という本人の意欲に着目し、透析治療中においても可能な範囲で歩行や移動動作を尊重しながら関わりを継続した。その結果、患者自身の自立への意欲が高まり、徐々にADLの改善が認められるようになった。加藤氏はこの変化を的確に評価し、透析室から玄関までの移動や車両乗降動作を院内で詳細に確認したうえで、「見守りと一部介助により対応可能」と判断。ケアマネジャーやヘルパーと連携し、自宅側支援体制を整備するとともに、院内スタッフとも調整を行い、タクシー到着から透析室までの移動支援体制を構築した。その結果、患者は介護送迎から当院乗り合いタクシー送迎へ移行し、在宅生活を継続しながら当院での透析治療を継続できるようになった。これは患者・家族双方の負担軽減だけでなく、患者本人の人間の尊厳と生活意欲の維持につながった。

また、高齢化やADL低下を抱える患者であっても、自宅での生活を継続しながら当院へ通院できる体制づくりに寄与し、当院の透析医療継続基盤の強化という面でも大きく貢献した。